

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891300075
法人名	医療法人 明生会
事業所名	グループホームこもれびの家
所在地	愛媛県四国中央市下柏町5 4 番地 1
自己評価作成日	平成24年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年2月24日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

広い窓から四季の風景を眺めることができ、天候や自然の移り変わりがよくわかり、ウッドデッキとゆったりとした環境の中「いつも一緒に楽しく・ゆっくりと」「人と人の結びつきを大切に」を心がけ利用者様と共に生活しています。季節の食材を使いバランスのとれた食事・季節感を味わって頂けるよう利用者様と一緒に作り食を楽しんでいます。地域の方・ボランティアの方々の訪問を大切に交流を行っています。母体が病院でいつでも受診でき、また訪問看護と連携をとり適切な受診や看護を受けられるよう支援を行っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 運営推進会議には、外部研修を受講した職員が研修時の資料をもとに「認知症の人の体験世界」等、得た情報を発表されたり、事業所自身で「環境が生活を変える」と題し、利用者の生活環境を見直し改善した様子を写真等も用いて発表された。民生委員の方から「行事の際に声をかけてくれれば、お手伝いしますよ」と声をかけてもらう等、協力者も増えてきている。
- 友人から手紙が届く方には、手紙を机の上に置き、時折、読み返すことができるようにされている。時を見て「お手紙来てますね、お返事を書かれますか？」と声をかけて、職員は便箋を用意しサポートされている。又、お正月・お盆等には、ご家族と外泊や外出できるようお願いされたり「お墓参りに行きたい」と利用者が希望される際には、ご家族と相談して支援されている。

### V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームこもれびの家

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

加地正子

評価完了日

平成24年1月27日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 職員はもとより訪問者の目にも止まりやすい位置に掲示して いる。月に一度のミーティングでも確認し、その都度原点に 返り理解と共有を意識づけケアへと繋げるよう心がけている。	
			(外部評価) 利用者の笑顔と安心を求めて「いつも一緒・楽しく・ゆっくり と」「人と人の結びつきを大切に」と理念を作成して、毎月行 う職員ミーティングの始まり時に、唱和されている。事業所 では、利用者がこれまで築いて来られたご家族や地域、友人 等とのつながりを大切に考えておられ、関係継続への支援 に力を入れて取り組まれている。又、目標には「あわてず、あ せらず、ゆっくり」と立てて、管理者は、日頃から職員に話し、 ケアにつながるよう取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 自治会に入り利用者と同覧板を次のお宅に届けたり、運営 推進会議などで地域の行事を教えて頂き、利用者が楽しめる 行事には出かけているが、近所の決まった人達との付き合い いで利用者個々が地域の中で生活を拓いて行くことは難し い。ご近所さんよりお花や野菜を頂いている。	
			(外部評価) 毎週木曜日に、近所の方2名が「傾聴ボランティア」に来てく ださり、居室で利用者のお話をゆっくり聞いてくださってい る。利用者は、日々の出来ごとをお話されることが多いよう だ。近所の方から野菜の苗や、お花・野菜をいただくことも多 い。日々の会話から利用者の友人が近所に住んでいること を知り、職員は、遊びに来てもらえるよう声をかけられた。友 人の方が来てくださるようになり、利用者もたいへん喜ばれて いる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や家族会等を活用し、認知症の人の理解を 深めていただけるよう働きかけている。地域への貢献はでき ていないが市の徘徊模擬訓練など参加させていただいた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームでの生活状況や問題点等の報告や話し合いを行い、助言や地域の情報を得ている。頂いた意見を取り入れサービス向上に努めている。災害時の避難場所の確認を一緒に行った。	
			(外部評価) 会議には、利用者、ご家族、民生委員、近所の方、法人内の事業所職員等が参加されており、行事や外出等の報告や外部研修を受講した職員が研修時の資料をもとに「認知症の人の体験世界」等、得た情報を発表されたり、事業所自身で「環境が生活を変える」と題し、利用者の生活環境を見直し改善した様子を写真等も用いて発表された。民生委員の方から「行事の際に声をかけてくれれば、お手伝いしますよ」と声をかけてもらう等、協力者も増えてきている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 月に1回ふれあい相談員さんの訪問がある。運営推進会議に高齢介護課の方が参加してくれている。市町村の行事にも出来るだけ参加し協力関係を築けるよう努めている。毎月のグループホーム便りを市に送っている。	
			(外部評価) 市の担当者の方には、近隣の方で「傾聴ボランティアをお願いできる方」を紹介していただいた。又、運営推進会議時、見ていただいた事業所便りは、市の高齢介護課内でも回覧してくださっている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員は身体拘束について理解しているが、職員が少なく、見守りが不十分になると判断した場合は、やむを得ず玄関に施錠することがあるが、現在は帰宅願望の強い方はいなくオープンに出来ている。家族会、運営推進会議でも話し合い施錠の理由を説明し理解していただいている。	
			(外部評価) 玄関は、施錠せず利用者が自由に出入りできるようになっているが、現在は、ひとりで外出する方はおられず、職員と一緒に出入りをされている。居間のソファーに体が沈み、立ち上がりにくいような利用者には、かた目の座布団を用意されたり、食卓の椅子は、利用者の体格等によって足置きを使用して、安定して座れるようにされていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  常に更衣時や入浴時に異常がないか気をつけている。小さな気づきも日誌などで申し送り職員間で情報を共有し全員で注意している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価)  権利擁護に関する制度の理解はできているが、職員の異動や新しい職員も増え、今後研修の機会を設けたい。現在活用されている方はいない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時に重要事項説明書などで説明を行い、理解、納得を得ている。また不安や疑問点を聞き取り説明している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  面会時や家族会などに気軽に話せるような雰囲気づくりに努めている。苦情については、書類に記し、管理者会議で報告し反映に努めている。意見箱の設置を行い意見を頂けるよう努めているが意見箱は活用されていない。	
			(外部評価)  年3回ほど、家族会を開催して、ほとんどのご家族が参加されている。家族会では、芋たきやお弁当と一緒に食べながらお話しして交流されており、職員は、ご家族にサービスへの感想や意見をお聞きしたり、不安や心配なこと等についても聞き取っておられる。	ご家族からは「よくして頂いている」と感想をいただくことが多く、ケアサービス等についての意見や要望はあまり出ないようだ。今後さらに、事業所のケアサービスの質を高めていくためにも、利用する側であるご家族の声を引き出す工夫を重ねていかれてほしい。ご家族と一緒に認知症や介護について勉強するような機会を作ったり、ご家族同士で話し合うような機会を作る等、家族会等も工夫されてみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングで意見や提案を話し合ったり、個々の面接を通して聞く機会を設けている。そこで出た意見や提案は、法人のミーティングで伝え反映されている。	
			(外部評価) 毎月の職員ミーティング時に、ケアや業務について意見を出し合い、話し合うようにされている。夜間トイレに行く利用者のサポートのために、職員からセンサーマットの使用について提案があり、夜間のみ採り入れられた。又、職員の気付きから畳の間には、ひざ掛けを数枚用意されており、足元が冷える等寒い日には、すぐに使えるようにされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 半期ごとに自己目標を掲げ自己評価を行っている。それにより努力や実績を把握し、施設長が給与水準を上げるべく働きかけを行ってくれている。業務内容の見直しは職員間で話し合い行っている。	
			(外部評価) 資格修得の支援をしてくれ、研修にも参加させてくれる。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修・相互研修・四国中央市GH交流会などに参加し、同業者と交流し情報交換の機会を持っている。研修で得た情報は、ミーティングなどで報告し話し合いサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 外部研修・相互研修・四国中央市GH交流会などに参加し、同業者と交流し情報交換の機会を持っている。研修で得た情報は、ミーティングなどで報告し話し合いサービスの向上に努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 外部研修・相互研修・四国中央市GH交流会などに参加し、同業者と交流し情報交換の機会を持っている。研修で得た情報は、ミーティングなどで報告し話し合いサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 外部研修・相互研修・四国中央市GH交流会などに参加し、同業者と交流し情報交換の機会を持っている。研修で得た情報は、ミーティングなどで報告し話し合いサービスの向上に努めている。	
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人、家族から多くの情報と想いを聴くように努めている。入居後は日々の関わりを大切に、信頼関係が築けるよう、寄り添いを大切に、言葉や表情の変化を見逃さないように努めている。	
			(外部評価) 本人、家族から多くの情報と想いを聴くように努めている。入居後は日々の関わりを大切に、信頼関係が築けるよう、寄り添いを大切に、言葉や表情の変化を見逃さないように努めている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 職員全員が面会時など家族と話しやすい雰囲気づくりに努めている。面会時などに近況報告を行い要望などを聴くことができるよう努めている。相談を受けた時は、傾聴し丁寧に対応し受け止めるようにしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前の様子の情報収集を行い、職員間で協議し、見極め本人や家族の希望等を交えたサービス提供が出来るように努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員間で話し合い、利用者の出来ること・得意なことを見極め、得意な事をお願いしたり、時には教えてもらい共に楽しく生活できるように努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会時には近況報告をし、通院、家族会、誕生日の参加を呼びかけ、共に支えていく関係を築いている。また利用者が不安になっている時なども連絡して協力を得ている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人や家族から情報を得て馴染みの人に連絡し、誕生日を一緒に祝ってもらったり関係が途切れないように努めている。(年賀状・暑中見舞いを送付・馴染みの美容院など利用)またお友達に手紙を書くなど支援に努めている。 (外部評価) 事業所では理念にもある「人と人との結びつき」を大切に取り組んでおられる。年賀状や暑中見舞いをご家族や友人に出せるよう支援されたり、友人から手紙が届く方には、手紙を机の上に置き、時折、読み返すことができるようにされている。時を見て「お手紙来てますね、お返事書かれますか？」と声をかけて、職員は便箋を用意しサポートされている。又、お正月・お盆等には、ご家族と外泊や外出できるようお願いされたり「お墓参りに行きたい」と利用者が希望される際には、ご家族と相談して支援されている。お正月に、娘さん夫婦とお孫さんが来てくれた際に、みなで撮った写真を居室に飾っておられ、職員は時々話題にしてご家族への思い等を聞くようにされている。毎年、利用者ご本人の誕生会に来てくださる兄弟の方は、ご自身が習っている踊りを披露してくださっている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) その日の様子を観て、ソファーに座る位置など配慮し寛げる雰囲気を作ったり、役割を個別に変えるなど、一人ひとりを理解しその時々思いに合わせた関わりを持ち孤立しないように努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同法人の療養病棟に移られた方は時々面会に行くが相談や支援の機会はないが病棟に移られたご家族様から毎年頂いていた山菜を今年も届けて頂いた。今後も関係を大切にしたい。	
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で本人の思いを知り、ミーティング等で話し合い、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。アセスメント表を作成し、職員間で情報共有に努めている。 (外部評価) 事業所独自でアセスメントシートを3通り作っておられる。1つは、利用者ご本人のこれまでの暮らしの様子を知るためのシートで、入居時に、「何と呼ばれていたか・親しい友人・行き付けのお店・嗜好・仕事・日課」等を利用者ご家族から聞き取っておられる。もう1つは「今の私です」という様式を作成して「会いたい人、どう接して欲しいか、不安や苦痛に感じている事、ターミナルについての希望」等の情報を収集されている。さらにもう1つの表でADL(日常生活動作)について現状を把握しておられ、これらをもとに、利用者個々の思いや意向の把握に取り組んでおられる。日々の中で新たに知り得た情報は、それぞれのアセスメント用紙に赤字で記入されていて、新人職員は、利用者一人ひとりについての思いや意向を知ってかわるようになっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の会話での聞き取りや家族や親類の協力で得た情報(アセスメント表)を、職員間で共有するように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 24時間アセスメント表の活用やバイタル測定の状態など確認しながらスタッフ間で密に連絡を取り、小さな変化を見落とさないように、現状の把握に努めている。(業務に追われ見つめる気持ちが流されているなど感じる事もある。)訪問看護とも連携を取っている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>家族の面会時、家族会や運営推進会議の後、時間をつくり話し合い情報を得、本人やご家族の希望に添うようミーティングで話し合い介護計画を作成している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>アセスメントシートに基づいて、利用者の思いや意向を把握し、ご家族の来訪時に、お聞きしたケアや暮らしへの希望を踏まえて、カンファレンスにて介護計画について話し合われている。計画の実施状況は、計画ごとに実施の有無を毎日記入するシートを作成され、1ヶ月ごとに実施状況の評価を行い、3ヶ月ごとに計画を見直しておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>ケアプランの達成状況を日々記録しているので職員間で統一したケアの実践ができ、介護計画の見直しにも活かされている。日々の気づきを共有できるように努めている。</p>	
			(自己評価)	
		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の状況に合わせ柔軟な対応が出来るよう心がけている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>法人のグループホーム・通所介護と交流があり時々利用している。また学生ボランティア、傾聴ボランティア、地域の方の慰問の協力を得ている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・家族が希望するかかりつけ医にて受診している。受診時には連絡ノートを使用し、必要に応じ受診時に同行し状況を伝えている。訪問看護から主治医に連絡をとり指示を仰ぎ支援している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>ご家族が受診に付き添う際には、利用者ご本人の状態を説明しやすいように「受診用ノート」を個別に作成して必要事項を記入し、出血等があった場合には写真を添付されている。又、訪問看護事業所から看護師が週5回来られて、利用者の健康管理をされており、又、夜間、利用者の体調が優れないような時には、連絡して対応等についてアドバイスをもらったり、医師へ状況説明等、病院とやり取りしてくださっている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>訪問看護、近隣の通所介護の看護職員とも連携を取り、適切な受診や看護が出来るよう支援している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院時には情報を提供し、早期退院が出来るよう連絡を取り合っている。職員も面会に行き不安解消に努めている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>早い段階で本人、家族の意向を大切に、主治医とも相談「できること、できないこと」を見極め支援に取り組んでいきたい。(重度化・終末期について家族会で話し合った)</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>現在は「最期は病院で見てもらいたい」と希望するご家族が多いようである。利用者からは「ぼっくりいきたい」「延命はいや」等、日々の何気ない会話の中から聞かれたことを記録されている。事業所に、今後のことについて相談があり、すでに療養病棟や特養に申し込んでいるご家族の方もいる。</p>	<p>管理者は、利用者主体の看取りを支援するためには、「病院やご家族と方針を共有して協力し合うことが大切」と考えておられる。職員は「利用者の希望があればその思いに応えたい」という思いを持っておられる。重度化・看取りの支援については、利用者の希望を大切に、事業所、ご家族、病院等、利用者にかかわる方達でどのように支援できるか、ということを話し合ってみてはどうだろうか。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  消防署の救命講習を受けている職員はいるが、職員全員が対応できるよう講習参加し緊急時対応できるようにしたい。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  年2回防火訓練を行っている。運営推進会議で災害時の対応について話し合い、地域の方の協力体制も築けてきている。地域の消防団の方の連絡先を教えている。  (外部評価)  運営推進会議時、災害対策について話し合った際には、夜間、非常口からの避難時、電気がないため暗く「街灯を付けてはどうか」という提案をいただいたことをきっかけに、事業所では、センサーライトを設置された。地域の近隣の方には、いざという時に協力いただけるよう依頼されており、避難後の利用者の見守りをお願いされている。協力いただける近所の方からは、電話番号も教えていただいた。	地震や津波等の災害時には、消防の方が事業所に来ることは難しいため、「事業所独自で頑張ってもらいたい」と言われており、備蓄や持ち出すもの等についても具体的に検討したいと考えておられる。今後もさらに、地域の方達とも協力しながら安全、安心に向けた体制を作っていってほしい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  職員間で話し合い、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。時に職員のペースになっていることがあり注意したい。  (外部評価)  職員は、利用者をトイレや入浴にお誘いする際には、他の利用者に聞こえないように気を配り、ゆっくりやわらかい口調で対応できるよう気を付けておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  本人の思いや希望を表したり、自己決定出来るよう、声かけなど工夫している。日々の関わりの中で話かけやすい雰囲気作り、思いを受け止めるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 無理な声かけはせず出来るだけ利用者の希望に沿った支援に努めているが、職員の勤務人数により、業務に追われ職員側の意向をあおることがある。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族の協力を得ながら馴染みの理容・美容院へ行っている。起床時の整容、外出時に洋服を着替えるなどその人らしい身だしなみが出来るよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の行事のメニューや旬の野菜(ご近所から頂いた野菜)を取り入れ食事を楽しみながら、利用者一人ひとりの力を活かし、一緒に調理から片づけまで行っている。好みにも配慮している。	
			(外部評価) 献立は、職員が1週間交代で立ておられ、嫌いな食材があれば、細かく刻んでお出ししたり、嫌いな食材は避ける等、個別に気を配っておられる。利用者は、日頃は野菜の下ごしらえや調理も一緒にされており、調査訪問時には、食事前後に台拭きを行ったり、職員と一緒に洗いや食器拭きをされていた。利用者が「ピザを食べたい」と言われたことをきっかけに、職員の知り合いの方がピザ作りに来てくださったり、「ビールが呑みたい」という利用者の希望等にも、医師やご家族と相談しながら、ノンアルコールビールで雰囲気を楽しまれている。夏場には、職員のお友達の協力を得て、ウッドデッキで本格的に焼き鳥を焼いてもらって、ノンアルコールビールを楽しまれた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 野菜を中心にバランスよく栄養が偏らないよう配慮し献立を考えている(職員が一週間当番制で献立をたてる)食事量や水分摂取量を記録し、不足している場合はおやつなどで補えるよう支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い、歯ブラシを柔らかいのに変えたり、一人ひとりに応じたケアを支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターン表を活用し、定期的なトイレの声かけにより失敗しないよう支援している。声掛けの工夫も行っている。日中は布パンツに移行し気持ちよく生活できるよう支援している。排泄のサインを見逃さないように努めている。	
			(外部評価) 排泄チェック表で、すべての利用者の排泄状況を把握されている。お茶等では十分に水分摂取できない利用者には、お茶寒天やスキムミルク寒天を手作りして食事時に添えたり、夏場にはポカリスエット寒天で水分補給できるように支援されている。尿意はあるが、夜間、トイレに間に合わない利用者があり「なぜ間に合わないか」について職員で話し合い、原因を探り、職員が必ず付添いトイレまで案内できるようセンサーを付けて対応され、改善に向けて取り組まれている。又、夜間は自室から出てトイレに行くことを面倒がる利用者もあり、ご本人から「夜間はポータブルトイレを使いたい」と希望もあって使用されている方がいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎食にお茶ゼリーなどを付け食物繊維を取り入れるよう工夫している。便秘の方には、のむヨーグルトをプラスして飲んでいただく、身体を動かす(散歩、掃除など)など工夫し、服薬は便の状態に合わせて調整している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 日曜日・イベントのある日以外は入浴できるようにしている。個々の曜日や時間帯は決めていないが、声かけのタイミングや言葉を選ぶことで無理強いをせず、入浴して頂けるよう支援している。	
			(外部評価) 事業所では、夏場は週3回、冬場は週2回入浴できるように支援されている。時間帯は、午後から入る方が多いようだ。「寝る前に入りたい」と希望する方もあるが、夜間は職員も1名で対応が困難なため夕方に入浴できるよう支援されている。利用者の中には、着替えをご自分で用意する方や、ご自分の持ち物を他利用者に預けて入浴する方もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の体調や状況に応じ昼寝を取り入れたり、自由に居室や和室で休息できるようにしている。馴染みの布団や枕を使用。自宅でベッドを使用していなかった方はベッドをはずし安心して眠れるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々に薬剤情報をファイリングして、いつでも確認できるようにしている。変更があるときは日誌で申し送り、症状の変化に注意している。必要に応じて訪問看護師や主治医に相談している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や趣味などを活かし個々の能力を発揮出来る場面を提供できるようケアプランに設定し全職員が共通意識を持って支援できるように心がけている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 勤務体制により希望に沿えない時が続くこともあるが、出来る限り実現させようと努力している。お花見・紅葉・地方祭など外出の機会を作っている。地域の子供太鼓が来てくれる。ご近所さんの畑でキンカンを収穫させて頂いた。 (外部評価) 「パンを買いに行きたい」と希望する方には、職員と一緒に近くのコンビニまで歩いて買いものに行かれたり、12月には、数名の利用者が職員と一緒に車でイルミネーションを見に出かけられた。外出行事として、季節ごとに桜や菖蒲、牡丹等を見に、みなで出かけておられる。調査訪問時には、職員と一緒に散歩に出かけて行かれ、近くにある法人内デイサービスで水仙のお花をいただいたようだ。	今後も利用者の希望をきっかけにして、地域の中に出かけていくような機会を作っていかれてほしい。懐かしい場所、思い出の場所、又、利用者がホッとできるような場所を地域の中に増やしていけるよう、探してみてもどうか。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望により財布を所持している方もいる。散髪や嗜好品の買い物など希望に沿って本人の財布から支払えるよう支援しているがあまり使っていない。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って支援できている。特に希望が無い方にも、年賀状や暑中見舞いを書いていただいたり、プレゼントが届いたときはお礼の電話をかけていただくよう働きかけている。友達と手紙のやり取りや面会に来て頂けた方もあり今後も継続できるように支援していきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) トイレの場所が分かるように名札を掲げ、季節の花やお雛様、五月人形、クリスマスの飾りつけなどを行い季節感をかもしだしている。カーテン、加湿器にて光や湿度の調節の工夫をしている。	
			(外部評価) 食堂のテーブルの上には椿や水仙の花を生けておられた。体が傾く傾向にある方には、ソファに肘置き付き座椅子を置き、安定した姿勢でテレビを楽しめるよう工夫されていた。居間の一角には、畳スペースがあり、掘りコタツに入って新聞を読んでおられる利用者もみられた。南に面した窓は大きく取っており、ウッドデッキに出られるようになっていて、天気の良い日にはご自分から「日光浴してきます」と言って、ウッドデッキに出られる利用者もいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合う利用者同士で掘りこたつで寛がれたり、暖かい日にはウッドデッキで日向ぼっこも楽しめる。リビング食堂と思いい思いに寛がれる居場所を工夫している。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者により個人差はあるが馴染みの物、家族の写真、御主人の位牌など持ち込まれ居心地よく過ごせるように工夫している。	
			(外部評価) 調査訪問時には、コタツに入ってうたた寝をされている方もみられた。足元が不安定な方も、毎日洋服をご自分で選び着替えられるように、椅子に座ったままタンスを開けて服を選べるように、椅子やタンスの置き場所を工夫された。又、夜間ポータブルトイレを使用する方には、ご本人がベットサイドを持ちながら一連の動作が出来るように、ベット ポータブルトイレ 洗面台への動線に沿って、設置場所を工夫された。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室前に名前と写真を掲示し、廊下やトイレなどには手すりがある。一人ひとりの出来ることを把握・理解し安全に生活できるよう支援している。	